

内丸緑地管理検討委員会第3回委員会

1 日時

平成29年7月28日（金）10時から11時25分まで

2 場所

岩手県公会堂 2階 21号室

3 出席委員

寺井良夫、内田尚宏、佐竹克也、颯田淳、平塚明、吉川三枝子

4 議事

○ 会議の公開

本日の会議の公開、非公開について諮った結果、公開することに決定

(1) パブリック・コメントの募集結果について

(2) ヒマラヤスギの対応方針について

(3) その他

.....

議事 (1) パブリック・コメントの募集結果について

○ 事務局において資料により説明。

委員長：パブリック・コメントを実施した結果、ヒマラヤスギを皆伐するという県の方針案に対して、反対意見は寄せられなかったということです。また、今後の内丸緑地の活用については、さまざまな御意見が寄せられたとのこと。

ただ今の説明に対して、御質問、御意見等をお願いしたいと思います。

委員長：確認ですが、1番目のパブリック・コメント「ヒマラヤスギに対する県の方針についての意見」ですけれども、8件ということですが、これは意見を提出したのが8人の方で、7、8、9、10番はみんなで考えたことを代表した人が書いた、と。そうすると連名みたいになっていたということですか？

事務局：7番から9番までは、お一人の方からの意見です。「周りの方々の話を聞いてみた

ら、こういったことを考えているようです」というものを1つにまとめて意見を提出したということです。

委員長：8人の方の意見が、1番から10番まで番号が振られていますけど、1人の人が1番、2番というように集計されているところがあるということですね。何番と何番が同一の人でしょうか。

事務局：1番から6番についてはそれぞれ別の方です。7、8、9番は、意見としてはお一人の方が提出されたものですが、それぞれ周囲の別の方の考えが並べられていて、集計上は一人の意見という形です。10番はまた別の方です。

委員長：わかりました。それから2番目「今後の内丸緑地に対する意見」です。提出件数が18件ということですが、人数にするとこれは何人でしょうか？

事務局：「1 ヒマラヤスギに対する県の方針についての意見」が8人で、同じ方が「2 今後の内丸緑地に対する意見」も記載されていますので、こちらも8人です。

委員長：そうすると、同じ8人が1番にも2番にも記載をしているということですね。8人分の記載に、内容がいろいろ含まれていたんで、18件に分類しているということですね。わかりました。

皆さんから何か感想などありますでしょうか。

委員2：まず伐採についてはみんな好意的だったというのは、委員会でも同じ方向でしたので、良かったと思っております。やはり問題は今後どのようにしていくかだろうと思います。そこはもっと長期的な考えを持って検討したほうが良いというコメントもありますし、適切な樹種をちゃんと考えてやったほうが良いと思います。桜が良いという意見が多いようです。私も桜が良いのかなと思っていますが、その場所に合うのか合わないのかは考える必要がありますし、桜であればどういう桜が良いのかというのもあるでしょう。その中でも統一的なデザインをすることが大事になりますので、これはもっと時間をかけて考えていいのではないかと思いました。あと、注目した意見が1つありました。「フェザンのところの道路下のブロンズ像を移設してはどうか」という意見が4番にあります。あの像は私もあそこにあるのはかわいそうだと思っていました。あれは船越保武さん、岩手出身の日本を代表する彫刻家の像だったと思います。「青年」でしたでしょうか。未来を見据える青年が道路下じゃ可哀想だと常々思っていたので、こういう場所に置かれると良いと思いました。これは思わぬ角度からの意見で感心しました。

委員3：もう少し激しい反対があるかもしれないと思っていました。基本的には全員皆伐

に賛成であり、この委員会としてはそういう意見をまとめて出すということによろしいかと思います。ただ、その後の緑地をどうするかという意見を全体的に見ると、やはり、何か木を代わりに植えるだけではなく、周りとの環境あるいはまちづくりと連動して決めてほしいということですね。昨日事務局に個人的に伺いましたが、この委員会としてはどこまでアイデアを出し、提案をすれば良いのでしょうか。つまり、ヒマラヤスギを皆伐して伐採跡に何を植えるかを提案するだけで良いのか、それともそれを含めて、市民からの御意見にあるように、周りの環境・景観づくり、周辺地域を含めての活用方法まで提案するべきなのか。どこまで踏み込んで提案すればよいのか。この委員会の役割をもう一回確認したい、というのが率直な気持ちです。

委員長：委員会の役割について、事務局からもう一度説明していただければと思います。

事務局：今回の委員会は、ヒマラヤスギの安全面をどうするのかというのがメインの委員会ですので、その点について今回で御提言をいただいて終わる予定です。それで、内丸緑地を考えていくに当たっては、簡単に回答が出るものではないと思っておりますので、別の委員会等意見を集約する場を設け、もう一度議論をし直したほうが良いと思います。この委員会につきましては、基本的にはヒマラヤスギの県の対応方針案について御意見をいただくということで考えております。あわせて、今回「その他」という議題を設けていますが、次の委員会への参考として、今後の内丸緑地の活用等について御意見をいただければと思っております。

委員3：ということは、ある程度、次の委員会の設立を踏まえて、踏み込んだ意見も参考意見として申し上げてよろしいということですね。

委員長：そうですね、ヒマラヤスギをどうするかについてはあまり議論するまでもなく結論がほぼ見えてきそうですので、残りの時間は、次に向けてのところに時間を割いた方が良いのではという風に感じています。他に意見等ありますか。

特になければ、「(1)パブリック・コメントの募集結果について」の質疑応答は、これで終結したいと思います。

.....

議事(2) ヒマラヤスギの対応方針について

委員長：当委員会は、「内丸緑地に植栽されたヒマラヤスギの高木化について、樹勢診断調査結果及びパブリック・コメントを踏まえた対応策を検討し、もって安心・安全な公園管理に資する」ために設置されているものですので、ヒマラヤスギに対する対

応策についての、われわれ委員会としての結論を出す必要があります。

パブリック・コメントでは反対意見は提出されませんでしたので、皆伐は、県民の皆さんの理解を得られたものであり、委員会としても、内丸緑地のヒマラヤスギについては皆伐することが適当であるという結論を出すことが相当であると考えますが、委員の皆さんはどのようなお考えか、御意見を伺いたいと思います。

この委員会として、結論をどうするか、ということですが。

(委員から「異議なし」の声)

委員長：特に付け加えておきたいことなどよろしいですか。

委員5：ずっと丁寧に皆さんで議論してきましたし、県民の方々の理解が得られたということと、内輪で出ている意見も、ほぼ県民の方々が考えていることと同じだったということで、良かったと思いますので、皆伐ということで決定して良いのではないかと思います。

委員長：それでは、特に異論もないですし、委員の皆さんは同じ意見のようですので、内丸緑地のヒマラヤスギについては、当初の対応方針案のとおり41本全てを伐採する、皆伐が適当である、ということの内丸緑地管理検討委員会の結論とすることによりよろしいでしょうか。

(委員から「異議なし」の声)

委員長：異議なしと認めます。

.....

議事(3) その他

委員長：ここについてのほうが重要だと思います。パブリック・コメントのほうでもたくさん意見が寄せられております。また、委員の皆さんも、それぞれいろんなお考え、希望、思いがあるのではないかと思いますので、御意見としてお出しただければと思います。いかがでしょうか。

委員2：新たな公園をどのようにしていくかということで、トータルなデザインが今後必要になってくると思います。そこには当然専門の人が入るわけですよね。この場にもそれぞれの分野の専門の方はいますが、

都市デザインという観点が大事だと思います。特に、以前から言っていますが、

国土交通省のほうで進めている「かわまちづくり」との関連です。中津川との関係であるとか、フットパスであるとかですね。その公園だけにとどまらない、周りの川、自然、お城とのつながりを有効にした盛岡全体のイメージを作るような都市デザインになりうる場所だと思うので、そこに時間をかけても良いんじゃないかと思っています。

あと、先ほどのブロンズ像ですが、船越保武さんの素晴らしい像なのに、橋の下では作品イメージを損ねています。移設して内丸緑地の象徴とされても良いんじゃないかなと考えてしまいました。

委員長：ブロンズ像については色々経緯があると思いますので、簡単にはいかないという話を伺ったことがあります。

委員2：実情は知りませんでした。いつも見るたびに青年が可哀想だと。

委員長：本当にそう思いますが、いろいろ理由があるんだろうと思います。

委員6：移設自体を同時進行ということですが、おっしゃるとおり銅像設置についてはかなり複雑な経緯があるということです。青空の下にないということでもかなり御意見をいただいておりますが、動かすのはちょっと今の段階では難しいんじゃないかと考えております。実際に動かすとなると、重量がかなりありますからクレーン等を使わないといけません、そうすると今も上に道路が走っておりますので難しいです。別な方法となるとかなりの予算がかかるでしょうし、技術的な問題もあります。あと、その地元での設置の経緯もありますので、移設はかなり難しいみたいです。

委員2：船越さんご本人は亡くなっていますよね。

委員6：亡くなっています。御家族の方が特にだめだという話をしているわけではないですが。

委員長：難しい事情があるのかもしれませんが、ずっと放置しておくのも良くないので、今回のテーマとは別ですが、もう一度検討することはあってもいいのかな、という気はします。この委員会の役割と少し離れることではありますが、盛岡市として街のデザインを考えるときには、いろんな課題があちこちにあります。そういうものを、いつの時点かで立ち止まって見直す、点検をする、より良い方向をみんなで考える、そんなことはあってもいいのかなという気がします。

他の委員の方々もいろいろ御意見があるのではないかと思います。

委員4：パブリック・コメントにもありましたが、なぜ今この問題が起きているかという

と、あの場所にヒマラヤスギを選択して植えた経緯が、結果として今こういう問題が起きて、皆さんで話し合わなければならない事態につながっているわけです。ですので、今後を考えていく上では、将来的になるべくコストがかからないような方向性を考えるということです。単純にそれだけの方向だけで考えるべきではないと思いますが、そこが1つのキーワードになると思うんですよ。この場所にこの木を植えて、将来大きくなったら管理がどうなるのか、万が一にもこんな問題が起こったらどうなるのかということも考えながらデザインすることが必要かと思います。

もう1つは、最初の委員会でも話しましたが、あそこはちょうどさんさ踊りのときの発着所のようなところになっていて、イベントの中心という言い過ぎかも知れませんが、そういうものになりうる立地にあのぐらいのスペースがあるということです。そう考えれば、イベントにも使いやすい、いろんなことに対応できるようなもののデザインがほしいですし、やっぱりトイレがほしい。あと、どなたかが意見として書いていましたが、市内で座れる場所は、あるようでなかなかありません。ベンチはどこも撤去されてしまっていて、盛岡城跡公園内の東屋などにはありますが、休める場所が割りと少ない。そういうことを加味して、イベントもできる、休憩もできる、トイレもあるというデザインで考えたら、イベントを企画する人たちが、あそこをもっともっと利用するんじゃないかと思います。だから、将来のコストの面も含めて考えたときには、今回のテーマにはなっていませんが、低木も含めてトータルで見直すことを今回の機会に併せてやってはどうかと、個人的には思います。

委員長：低木というのは周りを囲んでいる生垣ですか。それとも中の方の植栽ですか。どちらでしょうか。

委員4：結局のところ、あの状態だと何かに使おうと思ったときに非常に使いづらく、使い方が限定されてしまいます。だからもう少し汎用性のあるデザインにしてほしいです。私の頭の中のイメージでは、歩道と一体となった平らなスペースが非常に使いやすいと思います。そうすれば、一定の広い場所が確保できるという印象がありますね。そう単純ではない気もしますが。できれば、どこかにステージや屋根があったら良いというのは最初から言っているとおりです。端っこに屋根付きのステージと電源があれば、夕方にジャズを演奏する学生がいたりして、そういう公園であつたらすごく良いと思います。パブコメの中で、どなたかオープンテラスと書いていましたね。オープンテラスのようなイメージが私にはびつたりきますね。

委員2：オープンテラスはすごく良いと思います。街の明るさにもなりますし。そういう活用という視点もありますし、位置的に歴史という部分も私は大事ではないかと思えますね。そこをどうするかというのが話し合いだと思いますね。意見の中で「門を作ってはどうか」というものがあつたと思いますが、いわゆる不来方城があつた

位置付けとしてあの場所をどう考えるのかなど、新たに何かを作るといよりは、歴史を感じさせる考え方もあっていいんじゃないかと思います。

委員3：初回にも申し上げましたが、内丸緑地はいろいろな役割、側面から見られる場所ですね。繰り返しになりますが、先ほど委員がおっしゃったように歴史性、文化性というものがあって、史跡の一部と重なります。神社の参道であり、お城の正面玄関、大手門であり、県庁と向かい合わせでもありますから、当然位置付けは重要です。また、史跡であるお堀の縁ということで、先ほど「かわまちづくり」における水辺という御指摘がありました。お堀の水辺という水辺空間としての位置付けもあるし、商店街の一部でもあります。さんさの棧敷席が設置されますが、これも非常に重要です。都市空間であり、都市公園であり、都市緑地であるということになると、あの狭い場所にそんなにいろいろな役割を全部引き受けてもらって、こなせるんだろうかという気持ちは正直あります。

今回のパブリック・コメントでは、具体的なところ、本当に重要な点を皆さん指摘してくださっているなと思います。かなりプロフェッショナルな意見も混じっているとしました。例えば、日本の町、盛岡の町の中に広場がないとすれば、むしろ委員長のほうがよく御存知だと思いますが、日本の広場は例えば橋のたもとの辺りによく作られたという歴史があります。そこに番屋とかお店とかが作られていました。では今回の場所について交番はどうかというと、すでに隣に警察署があります。お店はちゃんと商店街にあります。そういうことでは、先ほどおっしゃったように、いろんな目的にフリーに使えるような、むしろあまり工作物のないフラットなシンプルな空間にするというのも1つの考え方だと思います。そのあたりはあくまでもいろいろな方の御意見を集めることが大事です。もし、この委員会で今後の検討の先取りをするとすれば、次の設計段階から市民の意見をどこまで含めて考えるのかという、方向付けではないでしょうか。最近の都市公園は、設計段階から最後の管理段階までなるべく多くの市民に参加してもらい、活用しようという方向になっています。この緑地に関してはどうするのか。盛岡の観光や都市のイメージにとって極めて重要な場所であり、ただ市民に加わってもらえばいいというだけではないでしょう。その辺の構成、基本的な考え方というのも、ある程度この委員会で出してもいいという気はいたします。

委員長：ここで議論すべきことは2つあると思います。あの公園をどんなデザインにしたらいいかという話と、あの公園をどうするかをどのような方法で決めていくのがいかがという話です。一部の専門家に任せるほうがいいのか、あるいは広く市民・県民でいろいろ議論をしたほうがいいのか。やり方はいろいろあると思います。

あと気になるのは、ヒマラヤスギを切った後、中低木を植えるというのが基本的な考え方、前提としてありましたが、本当にそれでいいのかということもあります。

事務局：中低木を植えるというのはあくまで切った後のイメージの1つですので、それをやると決まったわけではないです。あと、今後の利活用の検討方法については、私たちが検討方法をどうするかという検討をこれからやらなければならないと思っていて、それについて御示唆をいただけるということであれば大変ありがたいと思っています。

委員長：それでは2点に分けて意見交換をしたいと思います。まず、あそこの公園をどんなデザインにしたら良いのかについて、もう少し皆さんから御意見をいただきたいと思っています。それからもう1つは、どういう決め方をしていったら良いか。以上の2つについて意見交換をして、事務局のほうに提言という形でまとめをしたいと思っています。

まず1点目として、あの公園のデザインについて、全体的な視点で結構です。何人かの委員からはすでに御提案をいただきましたが、あともう何人か残っていらっしゃいますので、あの公園はこんな風なデザイン、こんな使い方をしたらいいんじゃないの、といった御意見をいただければと思います。

委員5：デザインとか私たちがどう使いたいかということよりも、その場にどんな人たちが集ってくるかということを考えるべきだと思います。その1つとして先ほどジャズの話が出ましたが、それだけではなく、まず第一に考えるべきなのは、近くに住んでいる人たちが使う場所であるということです。もちろん外から来る人もいるとは思いますが、何よりも、使われない公園というのが一番悲惨だと思います。使う人たちがどう使いたいかということのをうまくまとめていきながら形にしていくという作業が必要です。そこに住まわれている方にとってどういうニーズがあるかということですね。

NPOですと、公園を作ってしまったから「(公園を) どうしてくれ」、「ここをボランティアでなんとかしてほしい」というオーダーを受けることが多いです。ですが、公園を作る段階からあまり思い入れのないところで、いきなり活動してくれと言われても困ってしまう、というのが本音です。その公園を将来にわたって誰が、どのように管理するかという具体的な検討がないまま作ってしまうんですね。街中にある公園は大体が都市公園なので、管理ということを含めて考えなければなりません。

被災地のほうに行っても、今はどんどん公園が作られています。ですが、工事をする人たちは公園を作ることで儲けを出して、完成すればいなくなってしまう。「国の予算がついたのでこんな公園を作りました」と言って、完成すればいなくなってしまう。この状況は、盛岡市内でもたくさんありますし、被災地に行っても同様です。

内丸緑地は、街の中にある公園がどうあるべきか、どのように活用していったら

良いのかということを考える上ですごく重要な例となる場所だと思うので、本当に使える公園を目指していったほうが良いと思います。ちょっと漠然とした言い方になりますが、デザインをどうするかよりも、人が使える、人が集える場所づくりという視点で公園のあるべき姿を考えたほうが良い。それを表す場所として、内丸緑地を活用する方法を検討していただければと思います。

委員長：使われる公園ということですね。

委員5：そうですね。一番良くないのは使われない公園になってしまうことです。ベンチのこともそうですが、人が集ってない公園が一番残念です。ただ、使われる公園が何かと言われると難しいですし、いろんな意見があり得ると思います。ですので、そこは十分検討しながら進めていただいて、全国でもここは素晴らしいとか、この公園のここが良いよねと言われる場所になってほしいと思います。

委員長：他にありますか。

委員1：今の状態は、植栽が非常に鬱蒼としています。いい緑ではないと感じています。では緑がなくていいかということ、そういうことでもありませんね。ヒマラヤスギは皆伐ということでもいいと思いますが、公園内には他にヤマボウシがあり、ナナカマドがあり、シラカバがあり、ユリノキがあり、低木もたくさん植わっています。特に、ナナカマドは見ていて可哀想です。枯れかかった寸前と言いますかね。それからヤマボウシも、8本くらいありますが、グチャッと固まって植えられていて、ちょっともったいないと思います。おそらく、もう少し本数が少なくてのびのびと枝を広げていけば、いい感じの木になるんだろうなと思って見えています。シラカバも、たぶん都心部に植えるときれいに育たないんだと思います。シラカバは岩手の代表的な高原の木です。平庭高原に行けば素晴らしいシラカバの林があります。ですが、街中に5本あってもきれいに育てるのは難しいという印象を受けますね。あと、ユリノキも密に植えてしまっているの、うまく育っていません。盛岡城跡公園のユリノキは非常に大木になって見事に成長していますがけれども、内丸緑地のユリノキはなぜあんなに痩せっぽちなのかなと思っていました。

私は、それぞれの木が持っている本来の美しさをぜひ発揮してもらいたいと思います。街の真ん中に見事な大きな木があるというのは、それだけでその街の魅力を出してくれます。そういう木が1本でもあればいいと思っています。シンボルになるような、皆さんの気持ちを受け止めてくれるような、何十年、百年、二百年かけて育てていくような、そんな木がほしいという印象です。ヒマラヤスギも、うまく植えていけばそういうシンボルになり得たはずなんです。池に面した端っこに列で植えてしまったので、本来のヒマラヤスギの良さは生かされないままとなってしまいました。ぜひ緑をうまく生かす、そういう形のものがほしいと思います。

あと、イベントがしやすい公園であってほしい。いろんな人がそこに集える場であってほしいと思います。先ほど委員もおっしゃいましたが、欲張りすぎても半端になってしまいますので、少し方向性を絞って、狙いを定めてそれになかった場になってほしいと思います。

委員長：他に皆さんからありますか。なければもう1つの論点に入ります。どういう決め方をしたらいいのか、あの公園のこれからのあり方をどんな風に考えていくのかということです。どういう場で議論したらいいのか。どんな委員会の作り方をしたらいいのか、あるいはワークショップがいいのか。そのあたりについて御意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

委員2：今委員長がおっしゃったように、ワークショップが流行ってしまっていて、私もいろいろ行ったりしているんですが、その意見を取り上げていると、市民の声ではあるんですが、あれがやりたい、これがやりたい、という意見がさまざま出てきます。最後は主催者が意見をまとめるんですけども、結局はあれもこれもになって終わってしまうことが多いです。ワークショップありきというのはちょっと違うんじゃないかなと思います。もちろん、市民参加型のやり方として、1つの声として聞くというのは良い場だと思います。ですが、そこで出た意見をどう採用するのか、もしくはどういうビジョンの方向性に持って行くのかというようなデザインは、専門家が入って進めた方が良いと思います。どういう専門家を入れるのかという問題ももちろんあります。日本には少ないですが景観の専門家もあり得ますし、植物の専門家、都市交通やまちづくりの専門家もいます。やはり専門家の考え方も大事にするほうがいいんじゃないかと思います。

委員長：という御意見がありました。ワークショップ流行りと言いますか、ワークショップ疲れと言いますかね。そういう中で今のような意見も確かにあるなという気はいたします。ただ一方で、先ほど御意見があったように、専門家が作った、設計したものを後で渡されて「そこを管理してね」と言われても困るという意見もあります。

委員5：ワークショップが疲れるというのは、そのファシリテーターの力量によりけりだと思います。ファシリテーターや専門家がうまく意見をまとめるというか、議論の方向付けをしていけば、あれもこれもということには全然ならないと思います。そのために専門家がいるわけですし。

ファシリテーターも、専門家も、両方とも力量のある人がやれば、いいものができるんじゃないでしょうか。人の選定を誤らないようにするべきということですね。有名な人ということで任せてみたら、そこまで力量がなかったりといったことも経験なさっているんじゃないかと思います。ファシリテーターもいろんな人がいて、あまり有名でなくても本当に上手に進めてくれる方もいらっしゃいます。ワークシ

ヨップをやるから上手くいかないというような心配は、私はあまりしていません。人選が重要だと思います。

委員2：参考になるか分かりませんが、例えばドイツやスイスの川づくりでは、川に関連する3つの専門家、つまり景観、河川工学、生態系の専門家で決めています。民主主義の国なので市民の声を大事にしていると思いきや、その3者で決めていきますね。ちゃんと事前に「この方向で行きます」ということを提示して、それに対しての意見は、反対意見も含めて聞きます。それを聞き入れた上で進めていくわけですね。どうしてそのような進め方をしているかという、市民の声を聞いていてもなかなかいいものにならない、時間と経費が無駄じゃないか、というような背景からそうなったと聞いています。割と専門家たちが決めていくようですね。

委員5：それは最近のことでしょうか。確かに専門家は必要だとは思っています。

委員2：30年くらい前からやっていますね。町並みに対しても同じ進め方をしています。

委員4：年に何回かここを利用している方たちがいらっしやると思います。委員に入れるかどうかは別として、その方たちから、利用していて良いと感じた点や悪いと感じた点など、実際に意見を聞いたほうが良いと思います。今後利用する上で必要と感じるものも含めてですね。

委員長：それは当然大事ですね。具体的にどういう人たちですか。

委員4：バザーをやったり、キッチンカーのようなものが来て営業をしていますよね。そんなに頻繁ではないですが。

委員長：指定管理者でもし情報があれば。

指定管理者：今までですと、フリーマーケットが何回かありました。それから7月に開催予定でしたジャズフェスティバルですね。緑地のうち、公会堂側が飲食ブース、県庁側がステージとして使われる予定でした。結果として、雨のため実施されませんでした。

委員長：まずはさんさ踊りで利用されますし、それからジャズ、あとはフリーマーケットですね。フリーマーケットはどなたが主催したんですか。

指定管理者：一般の方です。何かグループで活動されている方の方です。イベントの際にお話があったのは、電気や水が非常に使いづらいということです。

委員長：開催に当たっては公園の利用の申請など何か県に届けがあって、ですか？

指定管理者：利用の窓口は県ですので、県のほうで話を受けます。

委員長：県のほうではイベント利用については前もって把握しているわけですね。

指定管理者：ただ、実際に利用するとき「水の使用はどうか」「車が乗り入れして良いですか」などの相談が、指定管理者のほうに来ます。

委員2：あの場所でフリーマーケットをしたいという理由はなんですか。近くでもそういうことをできる場所があるように思うんですけど。

指定管理者：利用者に聞いてみると、あの場所はイベントをするのに最高の場所だという話をいろいろな方から受けますね。

委員2：あまり広くないですよ。

指定管理者：あまり広くないですが、もりおか歴史文化館の前にある広場と比べると、内丸緑地のほうが、きちんと整備すれば使える広さはあるんです。本来、広さはあるんですが、使いつらい状態になっています。

委員2：段差を付けてしまっていますからね。

指定管理者：それから、バスの便を考えると、もりおか歴史文化館前よりも内丸緑地のほうが使いやすいという話はいろいろな方から伺います。ただ、構造の問題から使いつらい、使えないとのこと。

委員2：だけど、なぜここでやるのか。

指定管理者：場所が一等地なんです。

委員長：集客にいいんじゃないですか。

委員5：城跡公園の中で緑化祭りなどをやっていますが、その場所にアクセスすることを考えると、車社会ですので、市民の方々が歴史文化館のところまで来るというのは大変なものがあると思います。車じゃない人がアクセスするのに、内丸緑地だとバス停も近いし便利という感じではないかと。行きやすいということですね。

委員 2：フリーマーケットだったら当然そのほうが商売になるということでしょうか。

委員 5：商売もそうですね。あとは来た感じの雰囲気もありますし、バス停から行くことを考えると、歴史文化館の場合は、バスを降りたらちょっと歩かないといけないですね。ということを見ると、県庁前でバスを降りて、パッと行ける内丸緑地は魅力的だと思います。交通手段がない場合はそうだと思います。

委員 2：ただそこをそういう風に使おうと思ったら水のことやら何やらそういった新たな整備もしなきゃいけない、ということが出てくるわけですね。

指定管理者：一番の問題は、植栽の配置などが使いづらくしているということです。デザインの問題ですね。

委員 2：あそこで音楽のコンサートをするのはいいと思うんですけど、そこでしたいと思ったのは同じような交通の便とかですか。

委員 4：イベントは公会堂と一緒に使っていて、内丸緑地はその向かいにあるので、一体感ですね。そういう使い方があるんですよ。公会堂との位置関係が非常に魅力的ですね。これを見ながらやるんです。

指定管理者：今、御意見があったケースですと、奈良県の人が盛岡に来てイベントをやりたいという相談がありました。公会堂と内丸緑地の両方を使いたいという。

委員 4：雰囲気は抜群ですね。ところが、いざイベントをやろうと思うとレイアウトできないんですよね、植栽等が邪魔して。

委員 5：そうすると、あその場所で利用を制限しているものはあるのでしょうか。ヒマラヤスギとは別に、歴史的なものだからいじってはいけないといったものが。例えば隣に史跡があるなど。

委員 6：内丸緑地は史跡の区域外ですから、先ほど御意見があった意味での制限はないかと思います。

委員 5：ある意味では、これを機会に全体を考え直すことも可能ではあるということなんですね。

委員 4：突っ込んで言えば、石畳風の平らなところと一部芝生とあれば、イメージ的には

いいのかなと思いますけど。あとは木をどうするかっていうことだけですけど。

委員5：意外とコンクリートで固めるより、自然石や芝生を使ったほうが、後で変えたくなったときに変えられるということもあるので、そういう自然素材を使っておけば、石はひっくり返して別のものにもできるし、味も出ますね。

委員2：ヒマラヤスギは切るということですね。その後、低木を植えるかどうかの検討はまだですが、シラカバであるとか緑地内の木はどうする方針でしょうか。何もしないならあのままですが。

事務局：今回はヒマラヤスギの件だけを提案して検討してきましたけれども、その中で他の樹木についてもこのように話題になっています。今後見直す規模感をどうするかということはあると思います。公園内の樹木は全体的に見直すという御意見もありますし、これからの検討になってきます。

委員2：それを含めた今後の公園のあり方を検討するような委員会というか場をこれから作っていくという理解でしょうか。

事務局：それも含めてこれから検討するということです。

委員2：今出ていた話だと、コンサートやイベントをしようと思ったら、緑地内の木をどうにかしないと無理だろうという意見があったので。私も今の状態を良いとは思わないし、なぜこの木がここに無理やり植えられているんだろうと思うこともあります。

委員5：それはヒマラヤスギだけじゃないですよ。

事務局：もともと、内丸緑地は官公庁の中の緑の憩いの場所という位置付けで、何かしらの目的を持って作ったと言うよりは、緩衝帯のような場所として考えてきた経緯があります。そして、もともとは建物の敷地だった場所でもありますので、そういう中で、利用したいという御意見が多くなってきたのかなと感じています。そういったことをベースに、基本的な方向性とか、どういった方々が利用するのかといった状況もとらえていかないと、ニーズとは違うものになってしまいますので、そういった議論があり得るのかなと感じました。

委員3：今のやり取りを伺っていて、この委員会はヒマラヤスギの扱いについて結論を出すことが目的だということになっていますが、やはり緑地内の他の植栽、樹木についても考えざるを得ないと思います。そして、大方の意見は、ヒマラヤスギととも

に大幅に緑地内の樹木にも手を入れるという意見で一致しているようですね。それを含めて、今後の緑地のあり方を考える上では、お城を中心としたまちづくり計画との連動ということが非常に重要です。先ほど申し上げたようにさまざまな要素がここに集中しています。

今議題となっている今後の決め方に関しては、私としては信頼できる専門家がイニシアティブを握って進めるべきだと思います。というのは、自分がちょっとだけ関わったグラウンドワークがあり、その結果できたものがどうだったかということのを少し考えてみました。確かにいろいろな意見は言われましたが、ではトータルなデザインとしてどんなものができあがったかという、やや疑問が残るものでした。住宅街の身近な公園であればそういう作り方もあると思いますが、内丸緑地のように極めて重要なポイントとなる場所の空間デザインに関しては、相当手馴れの景観デザインないしは都市空間デザインのできる人に最初から関わってもらわないと、なかなかいいものはできないだろうと思います。もちろん市民の意見も重要です。今日報告のあったパブリック・コメントの中にも重要な意見がたくさん出ていますが、考えてみると相互に矛盾するものがたくさんありますね。例えば、「伐採後の木材を使って金沢駅前にあるような白木の門を作ってほしい」という意見。金沢駅前にある鼓門という高さ 18mくらいある立派な門ですが、あれのミニサイズだとしても、鳥居がある場所に作るというのは現実的には難しいです。金沢のように片側三車線の道路とつながるような広い空間があって初めて成り立つようなものですから。そういったことを含めて、もちろん一人ひとりの市民や利用者の意見はなるべくすくい上げるにしても、それをきちんと整理して、最終的にはこういう重要な空間が更に映えるデザインになりました、というものが作れる専門家の方を最初から検討に加えるべきだと思います。

この検討は非常に難しいと思います。この緑地だけではなく、その背後の商店街やお城との連動で全部デザインしなないと、緑地だけいじっても、おそらく場所の価値はなかなか上がらないということになります。

委員 5：専門家の選択に関して、市民目線から感じていることがあります。被災地のまちづくりなどをあちこち見ていると、個別に見るとすごくいいと思うんですが、同じ方があちこちでデザインを手がけていることがあって、そういうところは似たような感じになってしまうんですね。それはどうなんだろうと感じていて。ある町とある町で、コンサルタントやデザイナーが同じ人だったりすると、似たような雰囲気になって、その場所にきたという感動がないということになります。

専門家を選ぶ際には、本当に実績があって、融通を利かせられる人を選んでもらわないと後々大変だと思います。決して専門家が反対というわけではないです。専門家が最終的にはまとめなければならぬわけですが、誰がやるかということがとても大事です。とある被災地のまちづくりの事例で、あちこちで手がけている有名な方がいらっしゃるんですけど、市民が植えたい木があるという要望を出したとこ

ろ、その専門家の方が「木には虫が付いたりダニが付くから植えないでほしい」と言って問題になったということもあります。そういうことも含めて本当に力のある、実績のある人を選ばないと、人選を誤って後々いろんな問題が出たという事例をあちこちで見ます。そう考えるとかなり難しいですね。報酬はいくら払えば良いのかといったことも考えなければなりません。

今後、緑地周辺の空間をリニューアルするかしないかを検討する委員会から始めることにして、この機会に委員の方々から意見があれば発言してもいいということでしょうか。それとも、1つの意見としては専門家がいいのか。ですが、今の場所を変えるか変えないかということも検討しないといけませんよね。ここで勝手に議論してしまっているのでしょうか。今回の委員会はヒマラヤスギを切るということだけですよね。次の段階というのは。

事務局：それにつきましては1つの御意見ということにさせていただきたいと思います。

委員5：そうですね。

委員2：今おっしゃったとおり、専門家を選ぶというのはとても難しいと思います。それによってどういうものができるか決まってくると思います。これを誤ると、こんなはずではなかったということになります。先ほど景観の専門家について言いましたが、景観の専門家は構造物の分野とつながりがあって、デザインに当たっては物を作りたがる傾向にあります。ですが、この場所は物を作るんじゃなくて、お城を控え、川があり、県庁がある、あの場所についてどういう景観が良いのかという観点から考えられる人を選ぶべきだと思います。では誰が良いのかということは、この委員会のメンバーを参考にして選んでいくのでしょうか。どういう専門家にアドバイスを仰ぐのかというのは、とても大事だと思います。

委員4：せっかくこの場で皆さんで意見を出して、会議の中でこういう方向性が良いということをお話し合っているわけですから、できればこの会議の中のどなたかもそちらの委員会に入っていて、その方にこの委員会が出た意見を生かしていただければと思います。委員長が良いとは思いますが、一人ではなく数名ですね。どなたが良いということではないんですが、皆さんで話し合った中身は、ぜひその次の委員会でも生きたらいいと思います。

事務局：私たちのほうでも検討させていただきたいと思います。委員会形式になるかどうかはまだわかりませんが、もし次の機会に委員としてお世話になることがありましたら、よろしくお願ひします。そうならなくても、これからも内丸緑地について御意見がありましたらよろしくお願ひします。

委員1：せっかくすごくいい場所だということ、それから市民、県民にとって非常に関心が高い場所ですね。大事なところなので、少しお金がかかるかもしれないし、手間もかかるかもしれませんが、モデルになるような丁寧な決め方をしていってはどうかということを感じています。

専門家だけに任せるといのもどうかと思いますし、ワークショップに走るのも疑問に思います。それぞれいいところ、悪いところがありますので、私は両方のいいところ取りをしたいと思うんですよ。例えば、専門家の人たち、造園の専門家、まちづくりの専門家、イベントをやるのが得意な人みたいな人たちでチームを作って、たたき台を作ってもら。その上で、今度は市民や県民がそれを徹底的に叩く。その上で更にもう1回練りなおすという方法です。すごくまどろっこしいやり方になると思うんですが、専門家の方たちは、自分の考えに凝り固まってしまっていて、他の人たちの意見を取り入れられなかったりします。自分の意見が正しいと思い込んでいるんですね。それに走りがちなんです。それだと、実際に使う人たちの使い勝手が意外と悪いことになってしまう可能性があります。ですから、専門家の人たちも当然、技術的なことをクリアするなど、いろいろと考えてはくれるんですが、できあがったものはどこかチグハグだったりする可能性があります。それを今度は一般の人たち、利用者の目線でもう1回見直すと、またいろいろな切り口で「ああしたい、こうしたい」というのが出てくると思うんです。そうすると、より良いものに高まっていくと思います。

今回のパブリック・コメントでも本当にいろいろな意見が寄せられました。8件の人たちの意見だけでも、これを全部盛り込むというのは大変なことです。いろいろな意見が出てきて、これをまとめるのも相当困難ですが、まずはいろいろなものを盛り込んで、取捨選択が必要となることもありますけど、たたき台を作ってもらうことです。それをまたパブリック・コメントにかけるのが良いのか、ワークショップが良いのかはわかりませんが、やはり専門家ではない、使う人たちの声、そういうものをできるだけ入れる、そういう手順が欲しいと思います。最後に委員会のような形で結論付けるのが良いという考え方もあると思います。専門家もいて、市民、県民のワークショップがあり、委員会的な場で議論をする。

この内丸緑地は、みんなの宝となるような場所ですので、時間をかけて、ちょっと手間隙かけてやっても良いかな、ということを感じています。私とか年配の人はあまり前に出ずに、若い人たちを中心に、これからあそこをどんどん活用していこうという流れが出てくると良いと思います。意見の中には都市経営のような案も出ていましたが、公共の場を経営していく、活用していく、そんな感覚でこれから使う人たちに真剣に考えてもらいたいかなと思いました。

委員長：その他に皆さんから何かありますか。

委員6：この後の伐採までのスケジュールとか手続について伺いたいです。まずパブコメ

の公表をしたいと思います、今後の事務どのような流れになるのでしょうか。

事務局：パブコメの公表についてはできるだけ早く行います。これからのスケジュールですが、今日の委員会で皆伐という御提言をいただきましたので、県のほうで来年度に向けた予算要求を行います。予算が認められれば、来年度、伐採に着手する予定です。

委員長：これまでの議論の内容をまとめます。内丸緑地については、ヒマラヤスギの伐採だけではなく、その他の緑についてもかなり大幅に見直す方向、ということで提案させてもらってよろしいでしょうか。それから、これからの緑地のあり方を決めていく方法については、いろいろな御意見がありました。専門家にしっかり入ってもらいたい、使う人の声を大事にってもらいたい、あるいはこの委員会の委員の方に引き続き関わってもらいたい。そのような御意見がありましたので、ぜひその点を踏まえて、これから進めていっていただきたいと思います。

.....

6 閉会

- 事務局から閉会宣言